**先週の主日礼拝より**

**MANNA**

**「静まると見えてくる」**

**詩篇37章7～9節**

**523**

**2022.7.24号**

**笹川雅弘**

**● 休めない日本人**

遊びに出かけるという意味合いのVacationに対し、いつもの生活の場所からどこかに退いて、ゆっくりと静かなときを過ごして充電し英気を養うという場合はRetreatあるいはSabbaticalという言葉が使われる。経験上、日本人はこれらいずれの意味でも休むことが得意ではない。

**● この世のリズムとペースの中で**

この世界には避けがたいペースとリズムがある。会社生活でも、自営業でも、主婦業でも、学業でも、いつまでには何をしなければならない、ということの連続だ。ゆっくり自由にできる時間も決められている。そのただ中にいながら、目の前の忙しさ、せわしなさに翻弄され続けるのではなく、そこに神の国の喜び、平和、安らぎを見い出し、味わう時間を持つ恵みと特権を主とともに歩む者には与えられている。主イエスは一刻も休めないような超多忙の生活の中でも、静かに父なる神と交わる時間を必ず保っていた。

**● 切迫した事態のときに**

この点においてかつてイスラエルは、緊迫した事態が迫ったときに、しばしば失敗した。敵の大軍が目の前に迫っている。このままでは、攻め滅ぼされてしまう。焦って浮足立ち、あわてふためくイスラエルに向けて、主は一喝された。「やめよ。知れ。わたしこそ神」（詩篇46篇10節）イザヤ書ではこう記されている。「立ち返って落ち着いていれば、あなたがたは救われ、静かにして信頼すれば、あなたがたは力を得る。」（イザヤ30章15節）

怒りがこみ上げるときに

ダビデは多くの敵と戦ったが、敵との戦いにおいてではなく、怒りが心を支配したときにこそ、静まって主を待つときだと、自らの言い聞かせるように命じている。詩篇37:7 【主】の前に静まり耐え忍んで主を待て。その道が栄えている者や悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。思わず腹が立つとき。怒りの感情を抑えることができないとき。それは最も言葉と行動で失敗しやすいときだ。ダビデは、忍んでただ我慢するだけではなく、「主を待て」と言う。静まり主のみわざを、待つ。主の正しいさばきを、待つ。主の救いと解決を、待つ。強い感情と衝動が襲うとき、それは勇気をもって大胆に行動すること以上に難しい。

悪への道を断ち切る

37:8 怒ることをやめ憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。サタンは腹を立てさせることで悪への道へと誘う。人である限り一時的に怒りの感情に襲われることは避けようがない。ただその感情に支配され続けてはならないとみことばは命じる。エペソ 4:26 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってはいけません。

主のさばきを見つめて

怒りの罠に陥らないための一つの有効な手段は、主のさばきに目を留めることだ。37:9 悪を行う者は断ち切られ【主】を待ち望む者、彼らが地を受け継ぐからだ。この世での戒めのさばきも。永遠の運命が宣告される最後の審判も。主のさばきはいつも絶対に、正しい。贖われた者にとって、神のさばきは神への恐れを伴う希望だ。「地を受け継ぐ」とは、旧約の時代は祝福された約束の地、カナンを意味した。新約の時代では、この地上の祝福の先にある永遠の相続地、新しいエルサレム、新天新地を含む。全能の聖なる絶対者、正しい審判者である神が、私たちのうちにイエス・キリストを見て、神の国を相続させてくださる。静まって、その祝福の大きさ、確かさをかみしめるならば、目の前の憤りや焦りは退いていくだろう。

静まると見えてくる

主イエスは、当時「罪人」と蔑まれていた人々の罪や落ち度をさばかず、あわれみを注いで、救いのみわざを行われた。そしてこの私の贖いのためにご自身の命を進んで捨てられた。主の御前に静まると主イエスの「ゆるす愛」が、見えてくる。自分の、ゆるせない心、愛の欠如も見えてくる。そんな自分をゆるしてくださっている神、とりなしてくださっている神、愛してくださっている神が、見えてくる。それほどまでに、主に愛され、生かされているというすばらしい現実が、見えてくる。（賛美：朝露に緑が濡れて）

